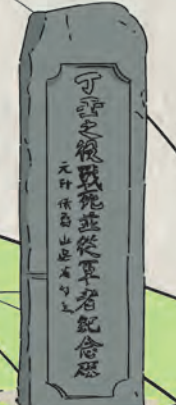


8 めめり坂の庚申塔



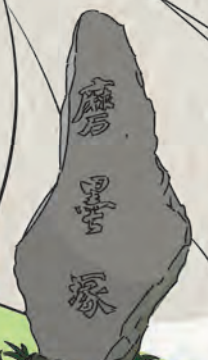
難所の坂を見守る庚申塔
古くは鎌倉街道で、「めめり」通り辛かった坂道。道が二股に別れる場所を、陽刻された青面金剛立像が見守る。
延宝5(1677) 南久が原2-29

9 西南戦役碑



幕末動乱の終焉の記憶
明治10年の西南戦争へこの地域から従軍し戦死した人々を慰霊する。碑銘の書は山縣有朋によるもの。
明治10(1877) 大森中1-1

10 磨墨塚



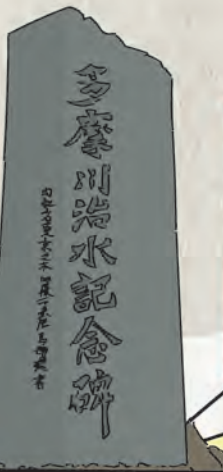
合戦で活躍した名馬
「宇治川合戦」で梶原景季が騎乗し活躍した名馬「磨墨」。馬込の産である。馬込で命を落とした、などの伝承にちなみ馬込村の人々により建立。
明治33(1900) 南馬込3-18-21

11 富士講碑



富士山信仰の痕跡はいま
富士講を広めた食行身禄の没百年を記念して建立された石碑。平成30年に新井宿薬師堂から現地に移設。
天保3(1832) 山王3-26-8根岸地蔵

12 多摩川治水記念碑



記念碑の建つ大事である
多摩川の治水工事を記念して建てられた碑。大正7年に羽田河口部から始まり、昭和9年に世田谷区砧地域までが完成した。
昭和11(1936) 田園調布1-55付近

13 日本帝国小銃射的協会跡碑



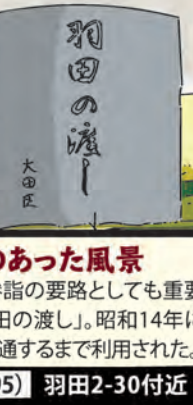
大田と「小銃」!?の関係
テニスクラブ敷地脇に似つかわしくない「小銃」の文字がある石碑。明治22年から昭和12年まで、ここに民間の「小銃練習場」があった名残。
建立年不明 山王2-24-12

14 頓兵衛地蔵



新田義興伝説の語り部
矢口で無念の死を遂げたとされる新田義興。その謀殺に加担した船頭が罪を悔いて造立したと伝わる。
紀年銘なし 下丸子1-1-19

15 羽田の渡し跡碑



渡し船のあった風景
川崎大師参詣の要路としても重要だった「羽田の渡し」。昭和14年に大師橋が開通するまで利用された。
平成7(1995) 羽田2-30付近

16 狐碑



人々を困らせた狐がいた
畑を荒らす狐と農民たちの戦いが想像される碑。一帯はかつて将軍家の御狩場でもあった。
文久1(1861) 山王3-43-11 熊野神社

17 馬込大太三寸人參発祥の地碑



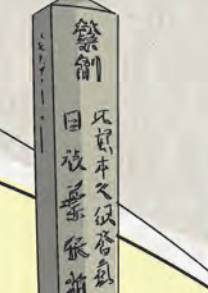
「半分白」と「太さ三寸」の名物
ユニークな「馬込半分節成胡瓜」と「馬込大太三寸人參」。ここ馬込が発祥の地であることを、ずっと忘れないために。
平成8(1996) 西馬込2-20-1

18 お七地蔵



悲恋の娘の霊を慰める
恋わずらいのため、江戸大火を引き起こし、鈴ヶ森刑場で処刑された八百屋お七。今も甲の地蔵には花が絶えない。
貞享2(1685) 大森北3-5-4 密蔵院内

19 銀杏折取禁制碑



寺の銀杏には今も昔も
薬師堂前は古くより銀杏の大きな木があり、産婦が折ると乳の出がよくなると信じられていた。碑はその行為を禁止するため、元禄3年に当寺の住職・栄弁によって建てられた。
元禄3(1690) 西六郷2-33-10安養寺内

20 日本舶用ディーゼル機関発祥之地碑



大田の工業史に名を刻む碑
大正10年、この地に新潟鉄工所蒲田工場が建設され、日本初の産業用ディーゼル機関が製造されたことを伝える記念碑。
昭和54(1979) 蒲田本町1-1

21 燈籠台石(東海道常夜灯)



ここにも富士講の痕跡が
江戸後期に富士講の人々により、東海道の道筋に建てられた常夜灯。台石の彫刻は庚申の年に富士山が湧き出たとする伝説を表す。
紀年銘なし(江戸後期) 大森西5-2-12大森三輪公園内

今回登場した石造物



22 蒲田駅前・モヤイ像

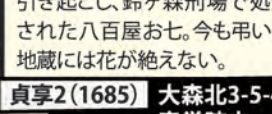


そこにあり続ける「絆」の象徴
蒲田駅東口の顔。「モヤイ」は新島では「共同して仕事に当たる」などの意味を持つ言葉。戦後40年の新たな大田区の創生に向け「モヤイ合気力」の象徴として新島観光協会より贈られた。
昭和59(1984) JR蒲田駅東口



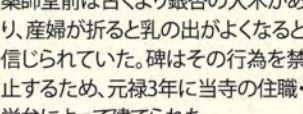
馬込半分節成胡瓜 馬込大太三寸人參

白い壁と山門、よく手入れされた庭が美しい山王3丁目善慶寺。その境内にある墓石は、江戸時代、将軍・家綱の頃の出来事を物語ってくれます。その頃、この新井宿村は収穫の少ない土地であった上に、飢饉などにも見舞われ暮らしては困難。そこに重い年貢まで課せられ、子供は口減らしのため奉公に出され、田畑家畜も借金返済のため手放すといった窮乏状態。村の代表6人は、いよいよ江戸に出て直訴することを決意しました。しかし、決行直前に捕らえられ、大罪人として処刑されてしまったのです。罪人ゆえに表立って供養もできず、縁故の者が父母のものとして墓を建て、裏面にこっそりと六人衆の名を刻みました(現在は六人衆の面を正面に置き直されています)。



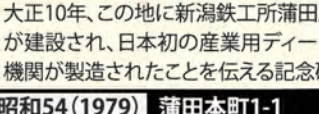
密かに供養する工夫

花立が四方に設置されるほか、水鉢に水を手向けると、溝を伝って裏面に流れる構造になっている。表向きは父母に墓参しつつも、裏面の六人衆も供養できる工夫がなされている。
延宝7(1679) 山王3-22-16善慶寺



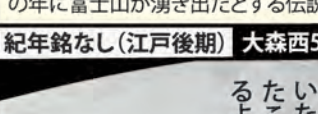
新井宿義民六人衆

義民六人衆の墓 都指定史跡



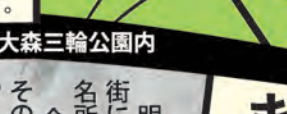
大田第三の梅の名所!?

明治16年に植えられた300本もの梅。今もあれば梅屋敷公園、池上梅園と肩を並べたかも。
紀年銘なし 多摩川12-13多摩川二丁目児童公園内



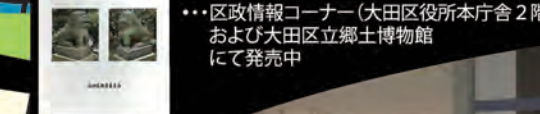
明治の名物温(鉦)泉

明治32年に源泉を発見。以後、鉦泉街として東京近郊の行楽地として栄えた。
明治34(1901) 大森南5-1-2大森寺内



森ヶ崎鉦源泉

大田区内には海苔養殖の終焉を記した石碑がいくつもあります。古くから沿岸部で営まれた「海苔漁」ですが、工業発展の背景もあり、東京港湾整備のため昭和37年には終焉を迎えました。その後、東京オリンピックのための開発も進められました。当時の人々にとっての海苔養殖とは、どのようなものだったか? 「大森海苔のふるさと館」で知ることができます。



大森 海苔のふるさと館

大森 海苔のふるさと館
9:00~17:00(6月~8月は19時まで)
3月・年末年始
入館無料 03-5471-0333
平和の森公園2-2
https://www.norimuseum.com



街の誇り。名産品の記憶

神社の片隅に佇む石碑。先祖代々の地で海苔漁が営まれてきたことと、その終焉が刻まれている。
昭和39(1964) 大森西2-23-6諏訪神社内

26 漁業納畢之碑

まちの物語 大森の海苔養殖終焉

まちの物語 石

失われた名所の記憶